

明治地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和元年7月16日（火）19：00～20：10
- 2 場所 明治地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 18名
市出席者 4名（深澤市長、乾危機管理部長、谷村農林水産部長、
安本市民生活部長）



4 テーマ 防災と地域の活性化について

5 概要

（地元あいさつ）

明治地区も他の中山間地域と同様、人口減少や少子高齢化が進んでいる。安全で安心して暮らせる明治を維持していくためには、防災や地域の活性化がポイントになると考えている。

本日は当地区の取り組みや考え方に対する市の意見や支援の可能性についてお聞きし、今後の活動の基礎にしていきたい。

（市長あいさつ）

人口減少や少子高齢化は明治地区だけでなく、鳥取市全体、国全体で進んでいる問題である。本日のテーマである防災と地域の活性化も鳥取市全体の大きな課題である。忌憚のない意見をいただけたらと思う。

明治地区の取組の説明

<テーマの背景>

当地区は地区延長が長く、谷の上流と下流でかなり地理的状况が異なっており、災害の状況に応じた判断や対応について難しい面がある。具体的には、平成29年の大雨時に、避難情報の伝達に手間取り、避難しなかった住民が見られたほか、市が臨時に指定した避難所と異なる場所（地区公民館）へ区長判断で避難するなど混乱が見られた。

また、当地区では人口減少に伴って空き家が増加してきている。地区が存続していくためにも、小学校の小規模転入制度等も絡めた空き家の利活用が必要となっている。地区内の農業人口も減少し、耕作の継続が難しい農家・農地が増えており、空き家と併せて農地の利活用も大きな課題となっている。

<地域の取組>

（防災について）

平成29年の大雨を教訓に、昨年度防災マップを全13集落で作成し、全戸配布した。また、モデル的に1集落で避難を中心として避難所設営、炊き出し等の防災訓練を行った。今後、全集落で実施することを計画している。

（地域活性化について）

地区で改めて空き家の調査を実施することを検討している。空き家の状態、所有者の意向などを地域内で集め、その中で活用の可能性の高いものに集中して、効率的に利活用を進めていきたいと考えている。

小学校の魅力醸成の一環として、地域として学校に求めるもの、子どもたちの望まれる姿についてアンケートを実施した。現在集計中ではあるが、この結果を参考にこれからの学校運営、教育の方向を検討していく予定としている。

農業振興については、現在地区内で農業法人が3団体設立されており、給食食材の栽培などに取り組んでいる。地区の農地や恵まれた自然環境を活かした新たな農業、事業が求められると考えている。

（地元）

明治地区は延長約20kmで、2つの谷に分かれている。平成29年の豪雨では上原の集会所への避難指示が出されたが、夜中で、避難所までの距離も離れており大変だった。地区公民館や小学校など、避難場所も複数必要ではないかと考えている。集落単位で2か所ずつ一時的な避難所を設定しているが、大規模災害のときは一時避難所では対応しきれないため、地区全体の避難所を考える必要があり、どこを避難所としたらいいのか迷っている。

また、避難指示の情報がどのようにして流れるのかを住民が十分把握できていないと思っている。安全に避難できるよう、市からはっきりと示していただきたい。

（地元）

災害がくる前の減災も大事である。急傾斜地の整備や水路の適正な管理など、地域に合っ

た対応が必要と思う。また、災害が起きたときの避難勧告や避難指示の情報も早い段階で知らせてほしい。

(地元)

平成29年の大雨では、避難の判断が分からず湖山の消防署に指示を仰いだ。避難の判断をどのようにして地区に対して徹底いただけるのか。

(地元)

地域によって状況が異なるため、どのタイミングで避難するか、それぞれの集落に合った指示の仕方をお願いできたらと思っている。

(市長)

平成29年の台風や、昨年7月豪雨のときは上原の集会所への避難を指示した。集落によっては距離が遠いが、いろいろな状況をみて判断させていただいたものである。夜間の避難が難しいことも承知しており、早い段階での避難もできるよう、市内10か所に自主避難所を開設するといったことも行っている。大雨が降ることが事前に予報で分かれば早めに避難していただきたい。

急な雨ではかえって外出が危ないこともある。浸水被害が想定される場合は自宅の2階などの高い所へ移動していただくとか、土砂災害等が予見される場合は山から離れた場所へ行っていただくなど、状況に応じて避難行動をとっていただけたらと思う。

今年度から警戒レベル1から5の段階に分けて注意喚起や避難の指示などを出すこととなっている。令和2年度からは防災ラジオの普及を図っていくこととしており、コミュニティFMというFM放送の放送局も新本庁舎内に入らせていただく予定としている。できる限り早く正確な情報を皆さんにお知らせできるよう、いろんな情報伝達手段を取り入れていきたい。テレビのテロップも、避難情報を出してから5分後には表示されるようにしている。

避難情報については、气象台や県の防災情報、河川の水位の監視や国土交通省からの河川の情報などをもとに出している。集落ごとに合った避難情報を出すことは難しいが、より具体的できめ細やかな情報をお知らせできるよう努めたい。

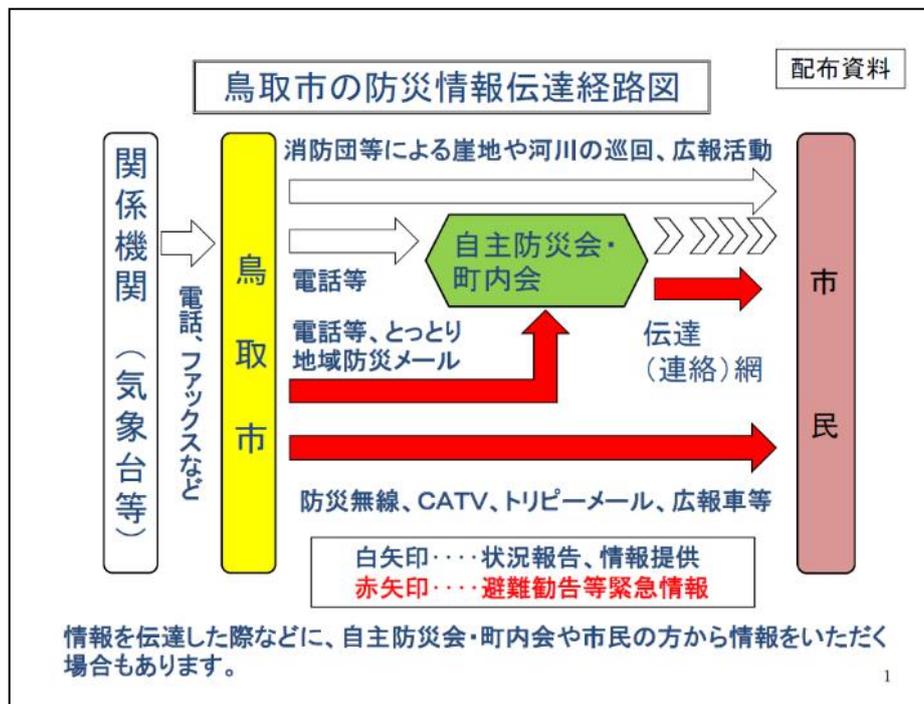
減災についてはそのとおりだと思う。全国的にいろんな災害が発生していることから、国も予防に努めようという考え方に変わってきたように感じる。市としても治水や砂防事業など、予防に努めていきたい。

(危機管理部長)

鳥取市における防災情報の伝達経路は、自主防災会や町内会に対してとっとり地域防災メールや直接電話をかけるルートと、市民に対して防災行政無線やCATV、トリピーメール、広報車等で伝えるルートがある。(次項の図参照)

加えて、来年の4月から有償で防災ラジオをお届けできるよう準備している。このラジオは避難勧告が発令されると強制的に電源のスイッチが入り、周波数を自動で調整してラジオ

が放送されるという仕組みのものである。こちらもぜひご活用いただきたい。



(地元)

明治地区では避難所が3か所指定されているが、大雨や土砂災害が予想される中で避難する際は、各集落の集会所等を活用するのが実際のところと思う。その後、指定された避難所にどういう形で移れるかという検討をする必要が出てくると思うが、どこの避難所が開設したかという情報が住民にまで入りにくい部分がある。情報収集を住民に呼びかけるだけでなく、市としても関係するところに連絡するなどのフォローをお願いしたい。

(市長)

まだ我々の情報の伝達方法が十分ではない部分もあると思う。1つの方法として取り上げているラジオは車で聞けるというメリットもあるため、普及させていきたいと考えている。今後も新しい情報伝達手段があれば、できる限り取り入れていきたい。

(地元)

集落単位での災害が発生した場合、地域は避難等をどう判断すればいいのか。そのような災害が発生した場合、周辺の集落等にも伝達するシステムができないかと思う。また、防災情報が自主防災会や町内会に伝達されるとあったが、そこから住民にも情報が伝達されるような仕組みができたと思う。

明治地区ではほとんどの集落が災害の恐れがある区域になっているほか、県道が野坂川と平行しており、大雨で県道が不通になった場合、避難自体ができない可能性もある。そういった事態を想定し、事前に計画を作っておく必要があると思うので、市にも相談に乗って

ただきたい。

(市長)

今の話をしっかり受け止めたいと思う。避難経路や災害時の行動については地域の特性に応じた対策が必要だと思うので、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

(地元)

空き家をうまく活用して地区の人口が増え、小学校ももっと賑やかになればと思っている。ただ、空き家の活用については個人情報や費用面など難しい部分がある。特に水回りの整備は非常にお金がかかるので、市の支援があれば教えていただきたい。また、空き家の活用に向けたアドバイスもいただけたらありがたい。

(地元)

今年度からまちづくり協議会の中に新たに部会を作り、空き家対策に取り組んでいる。明治小学校では小規模校転入制度を促進しており、その流れで地区に移住したいという世帯向けに空き家を利活用できないかと考えている。

(市長)

鳥取市では空き家バンクを活用し、空き家の所有者と入居希望者とのマッチングに取り組んでいる。いろいろと制度を整えてはいるが、使い勝手が悪ければ地域の声を聞いて制度を変えていくこともできると思うので、具体的な話があれば伺いたい。

(市民生活部長)

空き家は早めに活用することが所有者にとっても地域にとっても良いことだと思うので、ぜひ前向きに取り組んでいただけたらと思う。

市が行っている空き家の取り組みは大きく2つある。1つは鳥取県宅地建物取引業協会の東部支部と連携して行っている空き家バンクで、どんな方でも物件の登録や購入、賃貸をすることができる。

もう1つの取り組みは、地域で空き家を確保してもらい、移住希望者とマッチング等をしていただくという空き家の運營業務委託制度である。現在は6つの地域が取り組んでおり、運営に係る経費に対して委託費を出しているほか、県外からの入居が決まった場合は1件につき5万円の加算を行う仕組みにしている。地域で取り組む場合、顔なじみの方も多いためあって話が進めやすいのではと考えている。

その他、起業をする場合なども支援があるので相談いただきたい。

(地元)

今後空き家の対策を具体的に進めるにあたり、市に出向いて相談をしていく必要があると考えている。また、空き家について取り組む団体への支援の話があったが、一個人が空き家

対策に取り組む場合にも支援できるよう検討してほしい。

(市長)

空き家の運營業務委託制度は明治地区が部会を作って対策を考えておられるということで紹介させていただいた。具体的な事例等があれば一報いただきたい。今の制度が不十分だということであれば研究していきたいと考えている。

(司会)

空き家対策をテーマとして挙げたのは、1人でも多くの人に明治地区に移住してほしいという思いからである。明治小学校では小規模校転入制度によりかなりの人数になっているが、将来的には地域の子もたちだけで学校が維持できるようになればと思っている。小規模校転入制度で来たいという方に、お試し住宅という形で空き家に入居してもらえないだろうかとの意見もあったので、今後市と相談させていただきたい。

また、地区に定住してもらうためには、定住者の仕事のこと考えないといけない。地域の資源を活用した仕事、特に農業をしながら定住してもらえたら良いと思っている。

(地元)

法人による椎茸栽培の話があったが、今はどうなっているだろうか。

(地元)

話はあったが立ち消えとなってしまった。

(地元)

明治地区では法人が3つの集落で農業に取り組んでいる。この取り組みを明治地区全体に広げたいと考えており、市のアドバイスをいただきたい。

(農林水産部長)

明治地区では集落営農法人が活発に農業に取り組んでいる。河内では以前よりも大きな圃場ができており、里芋や落花生、水稻が植えられている。そこでできた作物は学校の給食にも使ってもらっている。

椎茸の話があったが、椎茸のブランドである茸王の栽培のため、原木を取りに行くまでの道づくりの支援制度作りもやっているところである。

村の自然を生かした取り組みとしては、例えば徳島県の上勝町というところでは里山の葉っぱや花を収穫し、料理の添え物として料亭に販売するビジネスを展開し、小さな集落でありながら2億6千万円ぐらいの収益を上げている。1軒の農家で1千万円を超える所得も上げているところもあり、全国的に注目を集めている。

地域の守るべき自然をどう生かしていくか、どのように消費者の皆さんに広められるかが力の見せどころではないかと思っている。地域の中でそういったものや、いい発想があれば

支援を考えていきたいのでご紹介いただきたい。

(市長あいさつ)

明治地区は地域づくりがとても盛んだと思っている。空き家のことも一緒になって考えていきたい。

今は出水期で大雨が降る時期である。一つひとつ災害に対応していきたい。また、今まで以上に具体的で、分かりやすい情報提供に努めたいと考えている。